

平成21年度 学術情報リテラシー教育担当者研修  
東京会場（2009.11.19）

# 神奈川大学図書館における 情報リテラシー教育事例報告



神奈川大学図書館  
吉場 千絵

# 1. 神奈川大学図書館の ガイダンスへようこそ！



# 本日の内容

1. まずは実演
2. 神奈川大学について
3. 図書館ガイダンスの概要
4. FYSにおけるガイダンスコンセプト
5. 今後の課題

## 2. 神奈川大学について



## 2. 神奈川大学について キャンパス



1928年創立（平塚は1989年開設）

## 2. 神奈川大学について キャンパス

### ・横浜キャンパス

在籍者 15,009名（うち院生472名）

法学部・経済学部・外国語学部

工学部・人間科学部

約18,900名の  
学生が学んでいます！

### ・湘南ひらつかキャンパス

在籍者 3,881名（うち院生133名）

経営学部・理学部

教員 1,320名（うち専任457名）

職員 402名（うち専任247名）



## 2. 神奈川大学について 図書館

- 横浜図書館

蔵書冊数 約972,000冊

図書館職員 53名（うち専任9名）

- 平塚図書室

蔵書冊数 約170,000冊

図書室職員 16名（うち専任3名）

所蔵冊数

約**114万冊**



\* 利用対象者

大学構成員・一般登録会員・相互協力大学関係者

### 3. 図書館ガイダンスの概要





### 3. ガイダンスの概要

- ① 図書館ツアー（4月に実施）
- ② 各種データベースセミナー（随時）
- ③ 映像セミナー（情報の達人上映会。FYS後）

#### ④ FYS (First Year Seminar) での 図書館ガイダンス (5月)

\* 学年別等系統だったものにはなっていない…

\* 次に繋げる、フォローができるプログラムになっていない…

### 3. ガイダンスの概要 ①図書館ツアー

時期；4月6日～4月17日

(入学式後すぐの土日を除く10日間)

内容；・ 図書館ツアー

・ OPACの使い方

→毎日それぞれ時間を変えて各1回実施

(お昼休みおよび夕方を中心に。計20回。各25分程度)

参加者数；・ 図書館ツアー 87名

・ OPACの使い方 78名

\*専任職員9名で全ツアー対応

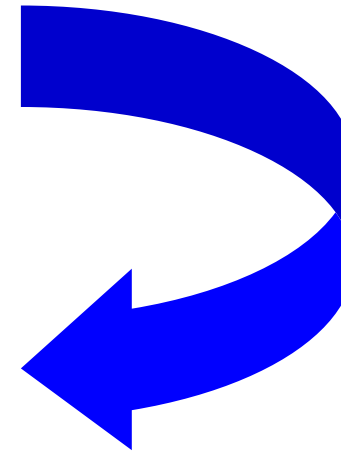
※2009年横浜実績

### 3. ガイダンスの概要

②各種DBセミナー

#### データベース単位

- ・ 新聞記事データベース
- ・ Japanknowledge
- ・ SciFinder（基礎編・応用編）



2009年度より

#### テーマ別へ

- ・ 就職活動に役立つデータベースセミナー  
（日経テレコン21・Japanknowledge）
- ・ レポート作成に役立つデータベースセミナー  
（初級；各種新聞DB・理科年表等  
応用；ProQuest・Web of Science）

## 3. ガイダンスの概要 ③映像セミナー

『情報の達人』DVDの上映会

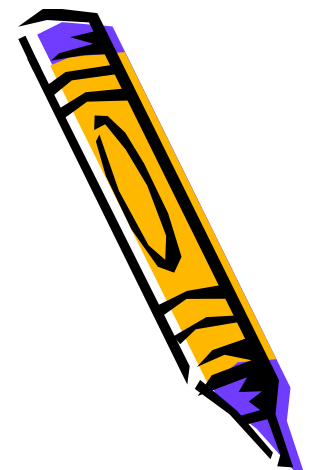
「レポートの書き方」

「プレゼンテーションの方法」

- \* 概説部分を順番に1日3回×2日間 計6回上映
- \* FYS実施後に開催（FYSの内容に近いため）
- \* 教員が引き連れて授業の一環での参加が多い
- \* 参加者特典あり（DVDの内容をまとめたものを作成）
- \* 授業でもこのDVDを利用する教員が増えた

参加者数 2日間合計 203名

# レポート・プレゼンテーションに関する 映像セミナーのご案内（図書館）



図書館では、下記映像セミナーを実施します。

①レポートの書き方 ②プレゼンの方法（各約10分）

5月26日（火）	10:40~11:05	①・②
	13:00~13:25	②・①
	14:45~15:10	①・②
5月27日（水）	10:40~11:05	②・①
	13:00~13:25	①・②
	14:45~15:10	②・①

セミナー終了後  
希望者限定  
書庫ツアーあり

場所：図書館 小ホール（B1F 視聴覚資料室横）

※申し込み不要（自由参加）！途中入退出可！

参加者には、レポート・プレゼンの参考になる  
資料を配布します。是非ご参加ください。



初級向けを  
追加！

# 映像セミナーの ご案内（図書館）

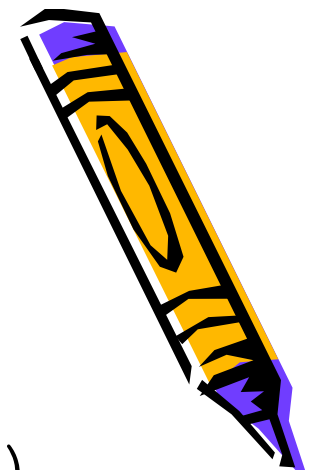
図書館利用初心者向けの映像セミナーも、  
今回追加で行います。FYS授業の復習もできます！  
回数は少ないですが、こちらをあわせて是非ご参加ください

## 「インターネット時代の情報活用入門！」

5月26日（火） 12:30~12:45

5月27日（水） 12:30~12:45

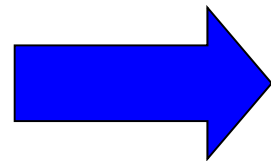
場所；図書館 小ホール（B1F 視聴覚資料室横）  
※申し込み不要（自由参加）！途中入退出可！  
お昼休みに、ちょっとのぞいてみてください。



### 3. ガイダンスの概要 ④FYSガイダンス

FYS（ファーストイヤーセミナー）とは？

- 全入学時代に育ってきた、多様な新生生に対応するための初年時教育科目として、2006年度より開始
- 半期の必修科目（1・2限、5限が多い）
- 全新生を1クラス25名程度に分け、教員全員が学部横断的に教育指導にあたろうという基本精神のもとスタート



その1コマを図書館が担当

# 3. ガイダンスの概要 ④FYSガイダンス

## FYSの構成

- 1) ガイダンス（自己紹介）×1コマ
- 2) 大学組織への入門（施設を知る）×2コマ
- 3) 情報の収集と解決策の探求  
（ノートの取り方・情報検索）×3コマ
- 4) 考えの構成と文章表現力の育成  
（レポートの書き方）×2コマ
- 5) 意見の発表と討論  
（プレゼンテーション）×4コマ
- 6) 総括 ×1コマ



# 3. ガイダンスの概要 ④FYSガイダンス

時期；5月中旬

実施状況；大教室での講義形式  
(70名~250名)

→実習ができない

実施回数；25回

\* 図書館専任職員8名が教室  
に出張して実施

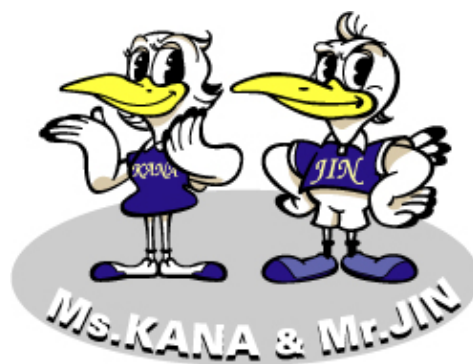
今年度参加人数；約2,900名

(1年生の横浜在籍者数は約3,500名)

※2009年度横浜実績(平塚除く)



# 4. FYSにおける 図書館ガイダンスのコンセプト

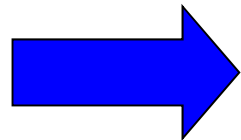


## 4. FYSにおけるガイダンスコンセプト

2009年度、図書館では

何にポイントを置くか？コンセプトは？

図書館として、誰をどうしたいのか？



何を伝えたいのか？

それは学生の要望にあっているのか？

(条件分析・3P分析)

まずは聴き手の分析から！

## 4. FYSにおけるガイダンスコンセプト

### 聴き手の分析

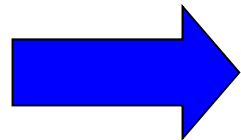
- ①自らの意思ではなく、授業だからしょうがなく来ている  
(具体的に困っている訳ではない。聞かせるのは至難の業)
- ②眠い(特に1限)。大人数だから寝てもわからない?
- ③既に図書館に来たことがある学生が結構いる
- ④OPACはほとんど使ったことがない
- ⑤高校までの図書館経験は薄い(請求記号って何?並び方?)
- ⑥事前に資料を配っても、ほぼ見ない
- ⑦これからレポート課題が絶対にある
- ⑧大学に慣れる方が実はまだ優先……etc

## 4. FYSにおけるガイダンスコンセプト

2009年度、図書館では

何にポイントを置くか？コンセプトは？

図書館として、誰をどうしたいのか？



何を伝えたいのか？

それは学生の要望にあっているのか？

(条件分析・3P分析)

まずは聴き手の分析から！

## 4. FYSにおけるガイダンスコンセプト

- ・何故図書館があって、図書館の利用を薦めるのか？その理由を知ってもらう

WHY?

- ・図書館の各種ルールを知ってもらう  
(資料の並び方・検索・利用方法・マナー)

HOW TO

\*伝えたいところは**最初**に。**インパクト**をもって。

\*聞くだけではなく、**作業**をしてもらう

(緊張感を持たせて寝させない。経験しないと頭に入らない) ※実習できるとよいが...

# 神奈川大学図書館の ガイダンスへ（おまけ）！



## 5. 今後の課題





## 5. 今後の課題 まずは今年の反省

### ①内容のスリム化、レベルの再検討

\*雑誌論文検索は別にする? 「図書館利用者教育ガイドライン」による目標の見直し。2コマもらう、もしくは他の時間を確保する

### ②合同形式ではなく、もう少し少人数に!

(せめて100名以下)

\*そのためには、実施回数が多くなっても対応できる図書館体制を確保する

### ③来年度、教員対象のアンケート&インタビューを実施

\*教員のニーズと学生のニーズをすり合わせる

### ④情報リテラシーテキストの内容および配布時期の見直し

## 5. 今後の課題 全体的な課題

- 体系的なガイダンスプログラムの提供
  - \* DB単位ガイダンスからの脱却  
(学年・状況別学生のニーズにあうプログラム提供)
  - \* それにあわせたテキストの作成
  - \* その方が学生も呼べる！ (学生がグッとくるテーマ)
- 人的なレベルアップ！
  - \* 質の均一化
  - \* 様々なプログラムに対応できる人材と人数の確保
- 教員との連携
  - \* やはり教員を巻き込んだ方が効果があるし強い

ご静聴ありがとうございました

